

A stylized, dark-toned map of East Asia, including China, Korea, and Japan, serves as the background. The map uses a muted color palette of greens, browns, and blues, with white lines indicating coastlines and major rivers. The text is overlaid on this map.

中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第四回 遣唐使の時代

質問

倭には、中国や朝鮮半島からの多くの移民がいたといいますが、その子孫はいまも日本にいますでしょうか？



Q

日本には、ギネスブックにも
載っている世界一歴史の古い
ものがある。それは何か？

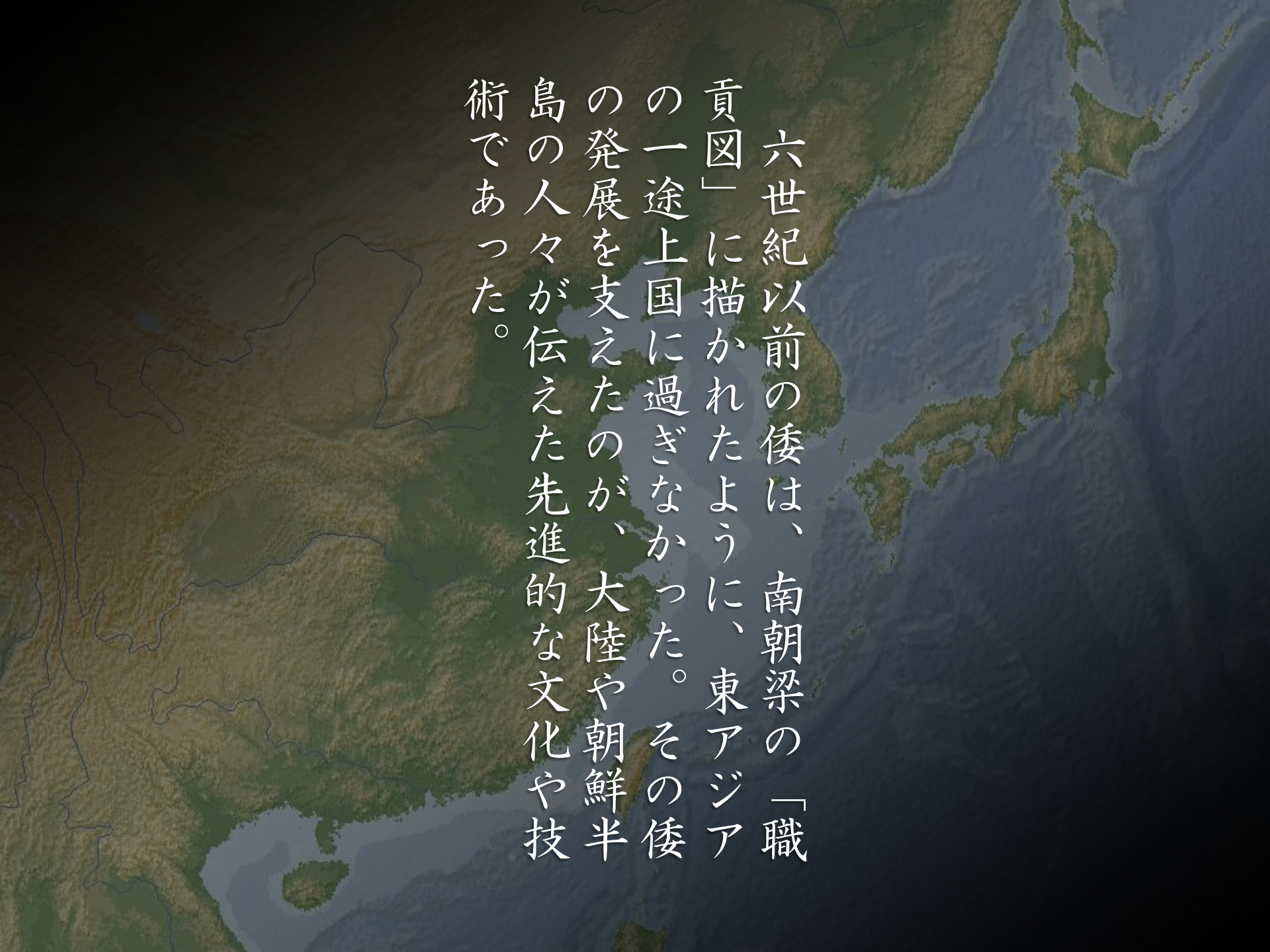
①寺院

②企業





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年（3）仏教伝来」より



六世紀以前の倭は、南朝梁の「職貢図」に描かれたように、東アジアの一途上国に過ぎなかった。その倭の発展を支えたのが、大陸や朝鮮半島の人々が伝えた先進的な文化や技術であった。



百濟國使

百濟舊時來夷馬韓之屬國言事駒野畧有遼東樂浪亦有遼西
平將自晉已來常修舊好蓋德仁王六年贈宋元嘉中世王時齊永
中其王餘太曾受中國官爵梁武以不臣正末自平身為高句驪所
逐至仁王餘隆遣使奉表去黑風高麗所治城曰固麻謂之曰據
中其地雖有二十餘曾分子弟系統為之旁小國有叛波卓多羅前羅
斯羅止達麻連上已文下披羅等國之語云畧同高麗行不
拱拜不申足以帽為冠縞白履衣冠曰解其言云諸夏亦春朝



倭國使

倭國在朝鮮之東南大海中依兩島居曰帶方領海本不南不北
其北岸虛三下餘國丁方餘里倭王所居人恆在會稽系氣地
出真珠青玉黑牛黑虎豹羊鶴
漢無縫旦告



南朝梁「職貢圖」 (北宋寫本 中國歷史博物館藏)



北朝
異民族王朝

高句麗

先進文化・技術

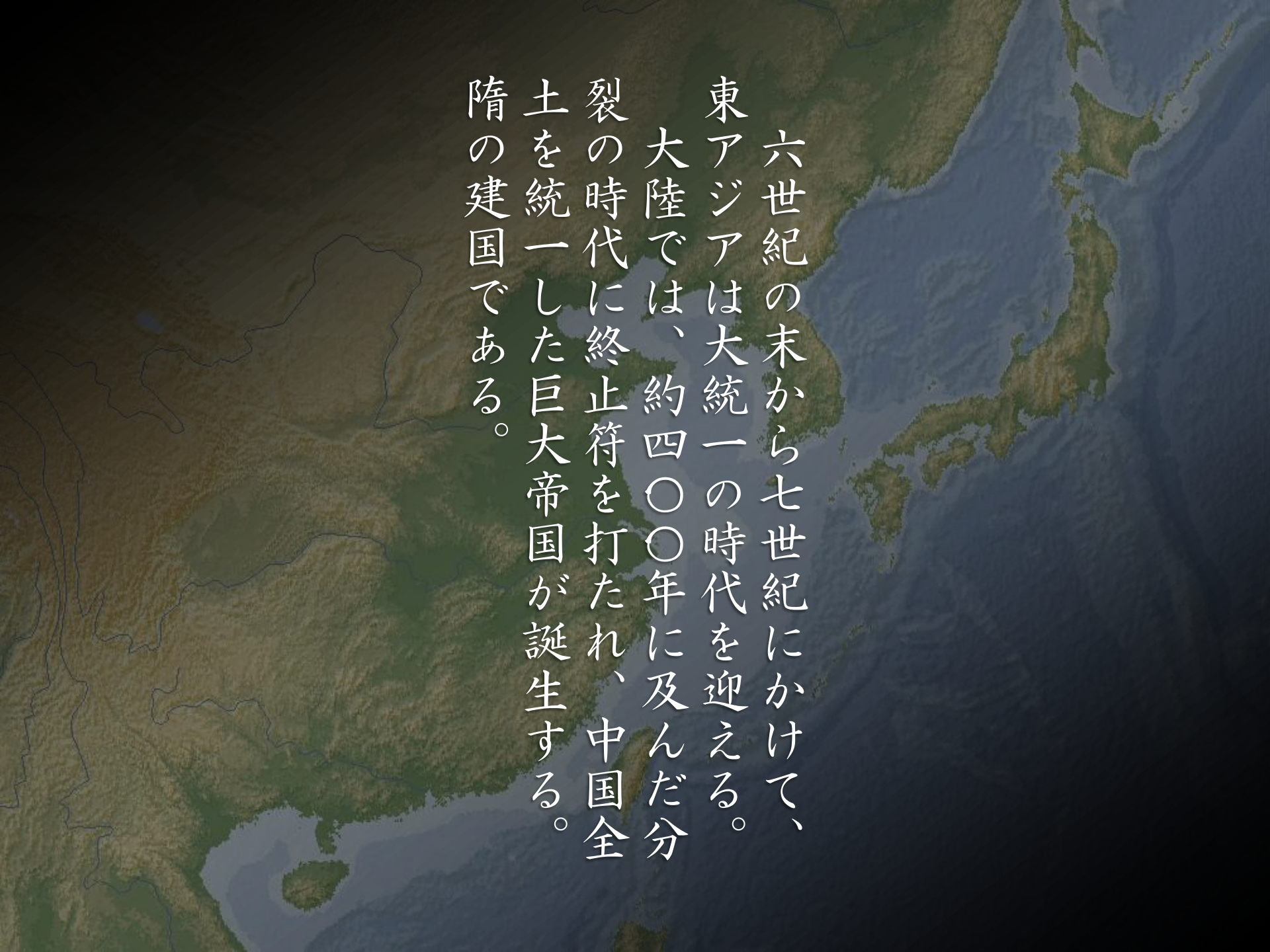
新羅
百濟

倭

軍事的支援

南朝
漢民族の亡命政権

5～6世紀ごろの東アジア



六世紀の末から七世紀にかけて、
東アジアは大統一の時代を迎える。
大陸では、約四〇〇年に及んだ分
裂の時代に終止符を打たれ、中国全
土を統一した巨大帝国が誕生する。
隋の建国である。



北朝

異民族王朝

高句麗

百濟
新羅

倭

南朝

漢民族の亡命政権

5～6世紀ごろの東アジア

突厥

高句麗

新羅
百濟

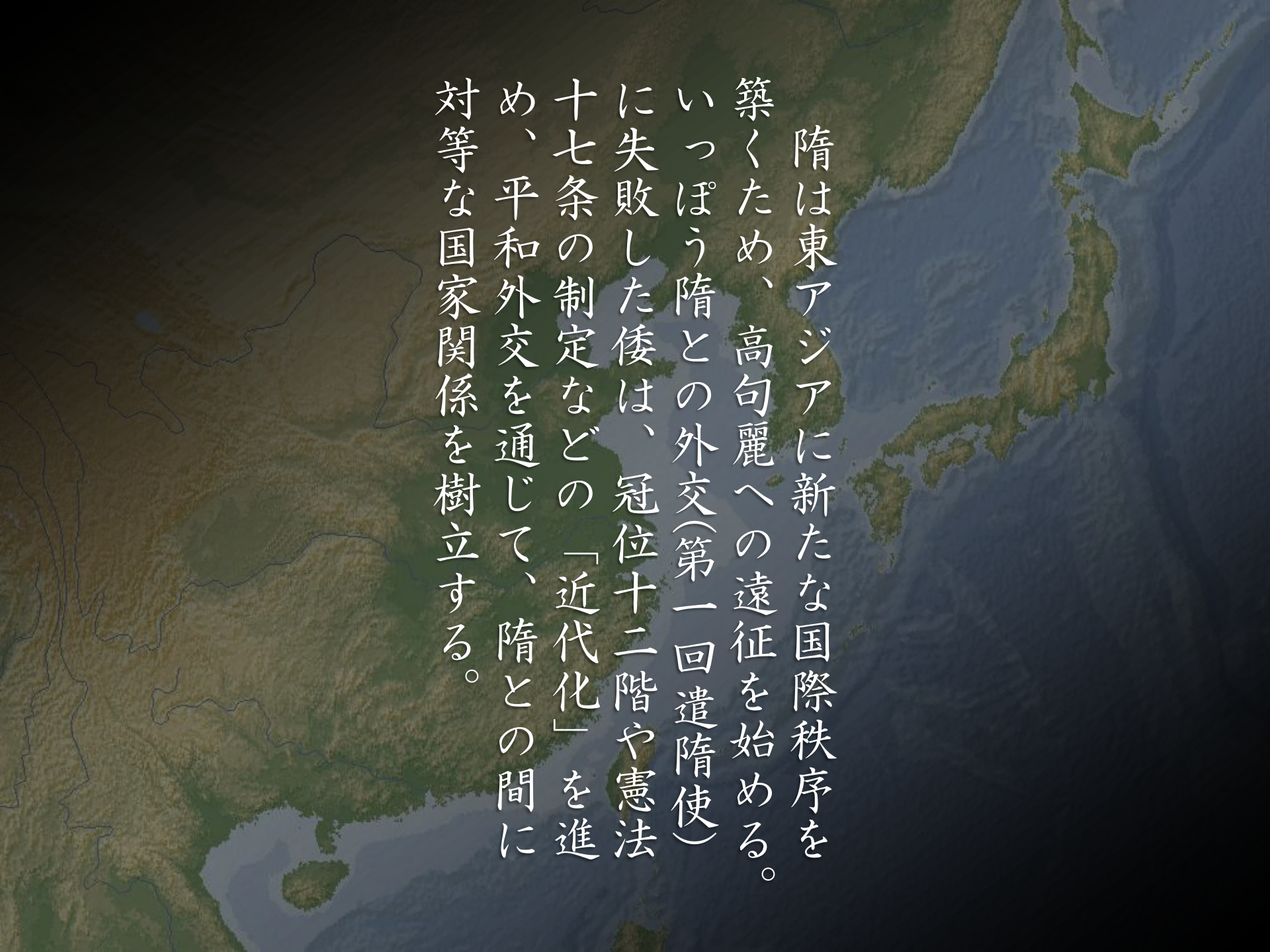
倭

隋

589年建国

6世紀末の東アジア





隋は東アジアに新たな国際秩序を築くため、高句麗への遠征を始める。いっぽう隋との外交(第一回遣隋使)に失敗した倭は、冠位十二階や憲法十七条の制定などの「近代化」を進め、平和外交を通じて、隋との間に対等な国家関係を樹立する。

突厥

隋の高句麗遠征
(598-614年) 高句麗

隋

589年建国

新羅
百濟

倭

6世紀末の東アジア

突厥

隋の高句麗遠征
(598-614年) 高句麗

大興(現在の西安)

遣隋使
(600-615年)

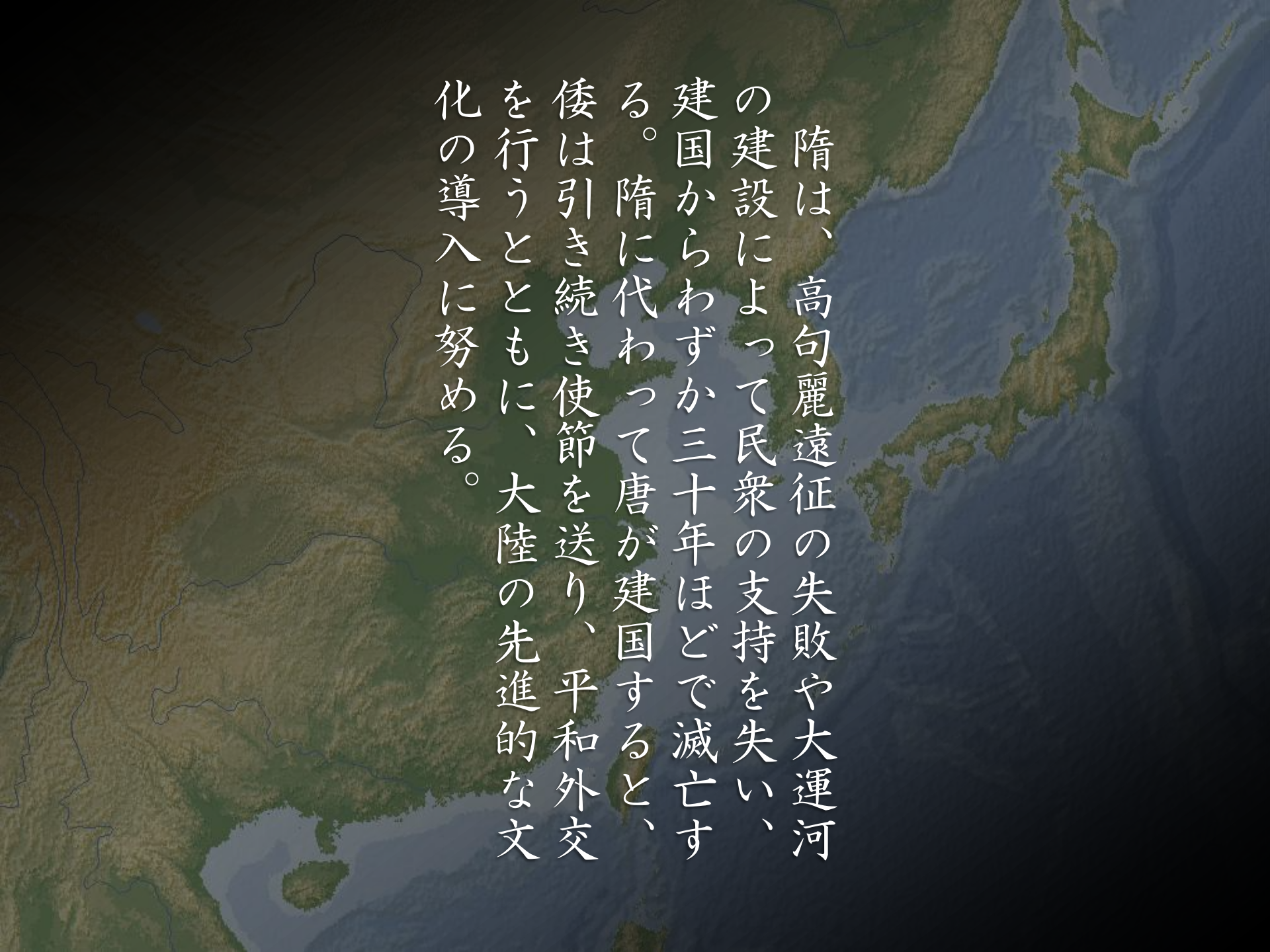
隋

589年建国

新羅
百濟

倭

6世紀末の東アジア



隋は、高句麗遠征の失敗や大運河の建設によって民衆の支持を失い、建国からわずか三十年ほどで滅亡する。隋に代わって唐が建国すると、倭は引き続き使節を送り、平和外交を行うとともに、大陸の先進的な文化の導入に努める。

突厥

隋の高句麗遠征
(598-614年) 高句麗

隋

589年建国

大運河の建設

新羅
百済

倭

6世紀末の東アジア

突厥

長安(現在の西安)

遣唐使
(630-836年)

高句麗

新羅
百濟

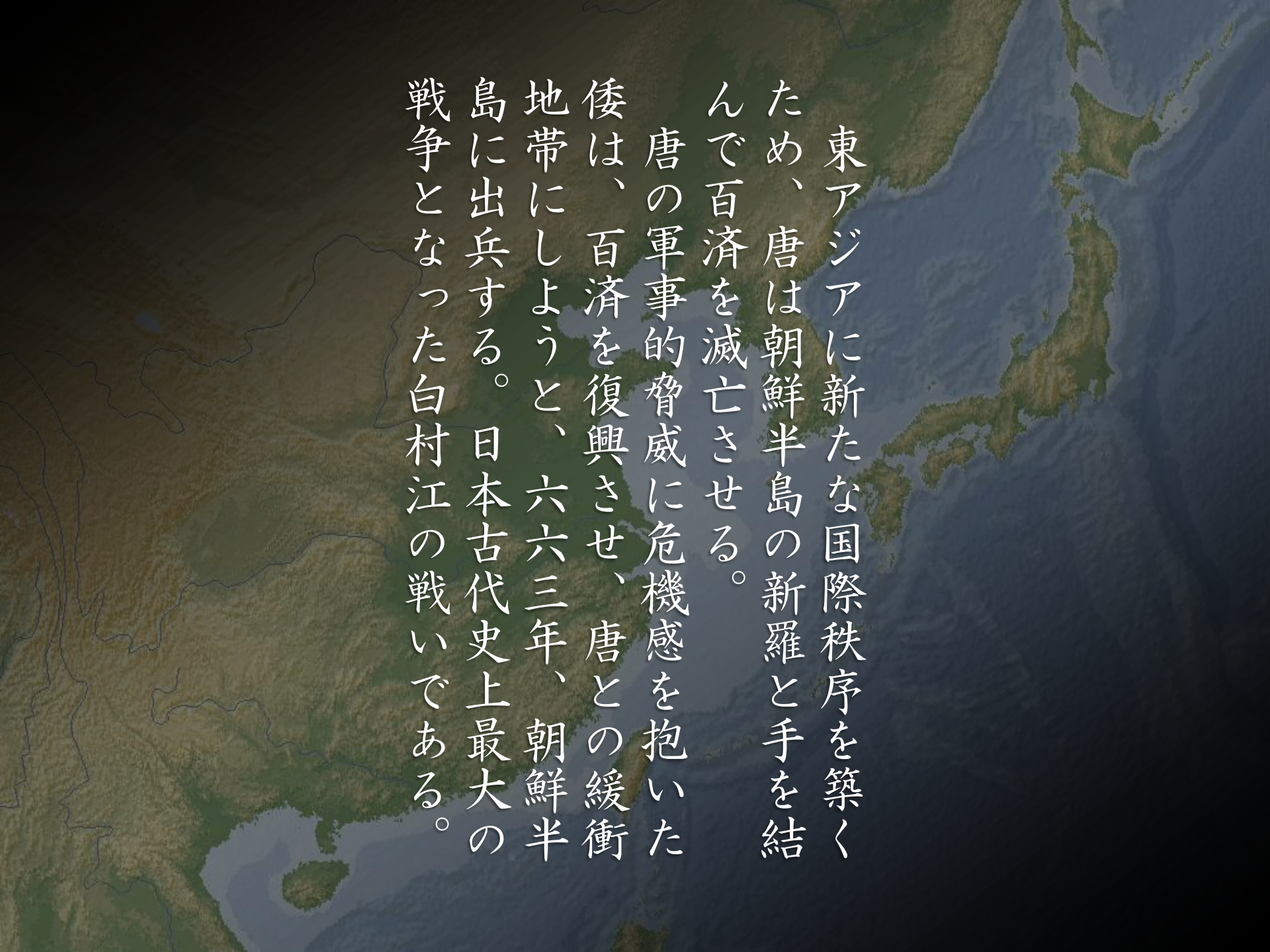
倭

唐

618年建国

6世紀末の東アジア





東アジアに新たな国際秩序を築くため、唐は朝鮮半島の新羅と手を結んで百済を滅亡させる。

唐の軍事的脅威に危機感を抱いた倭は、百済を復興させ、唐との緩衝地帯にしようと、六六三年、朝鮮半島に出兵する。日本古代史上最大の戦争となった白村江の戦いである。



唐

618年建国

高句麗

新羅
百濟

660年滅亡

倭

7世紀の東アジア

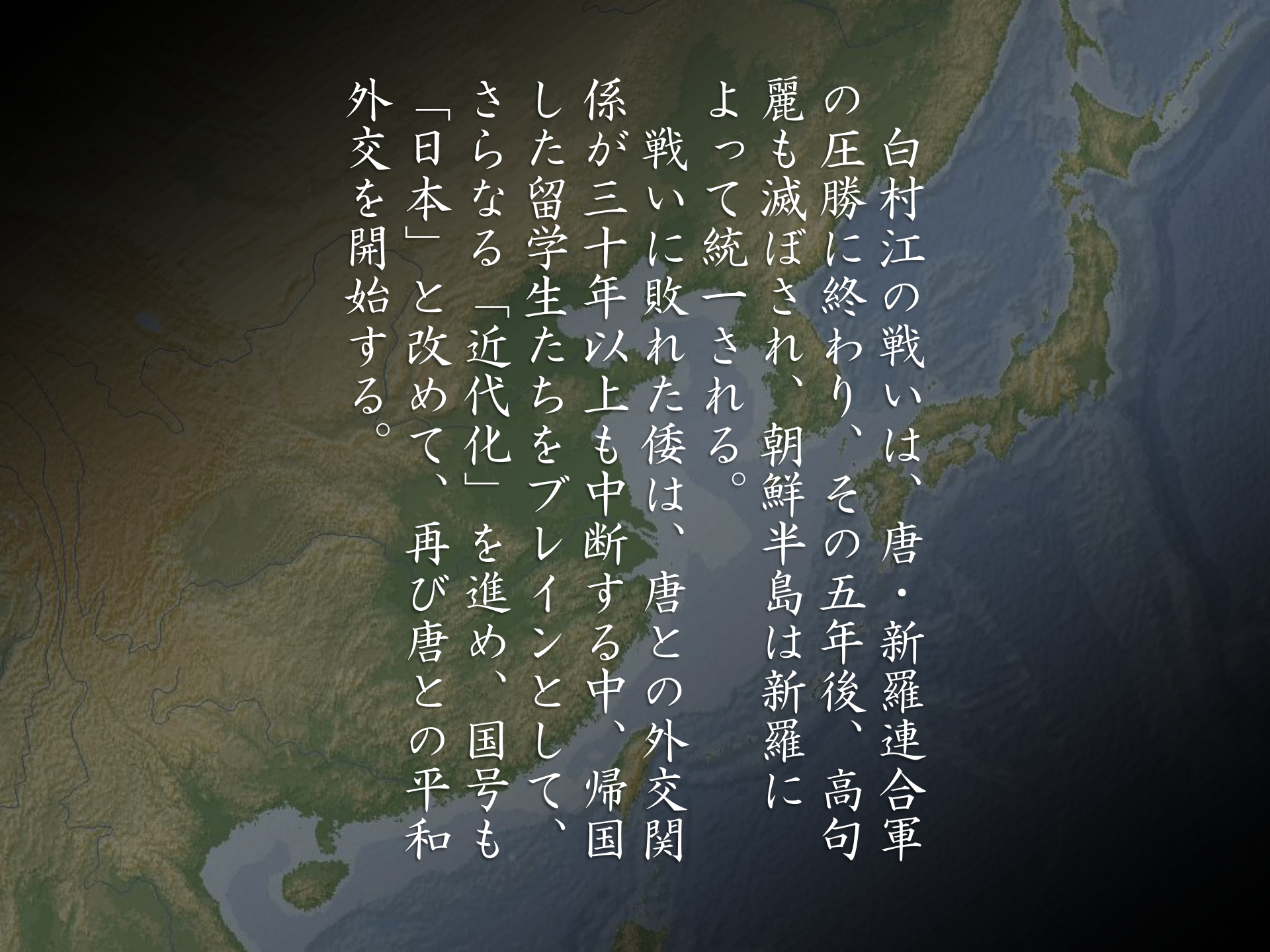


白村江の戦い
663年

唐の水軍

新羅軍

日本の水軍



白村江の戦いは、唐・新羅連合軍の圧勝に終わり、その五年後、高句麗も滅ぼされ、朝鮮半島は新羅によって統一される。

戦いに敗れた倭は、唐との外交関係が三十年以上も中断する中、帰国した留学生たちをブレインとして、さらなる「近代化」を進め、国号も「日本」と改めて、再び唐との平和外交を開始する。



高句麗
668年滅亡

新羅

倭

唐

618年建国

7世紀の東アジア

A topographical map of East Asia showing the Korean Peninsula, Japan, and the surrounding seas. The map uses color to represent elevation, with green for lower land and brown for higher terrain. The Great Wall of China is visible in the north. The text labels indicate the political status of the region in the 7th century.

唐

618年建国

新羅

676年統一

倭

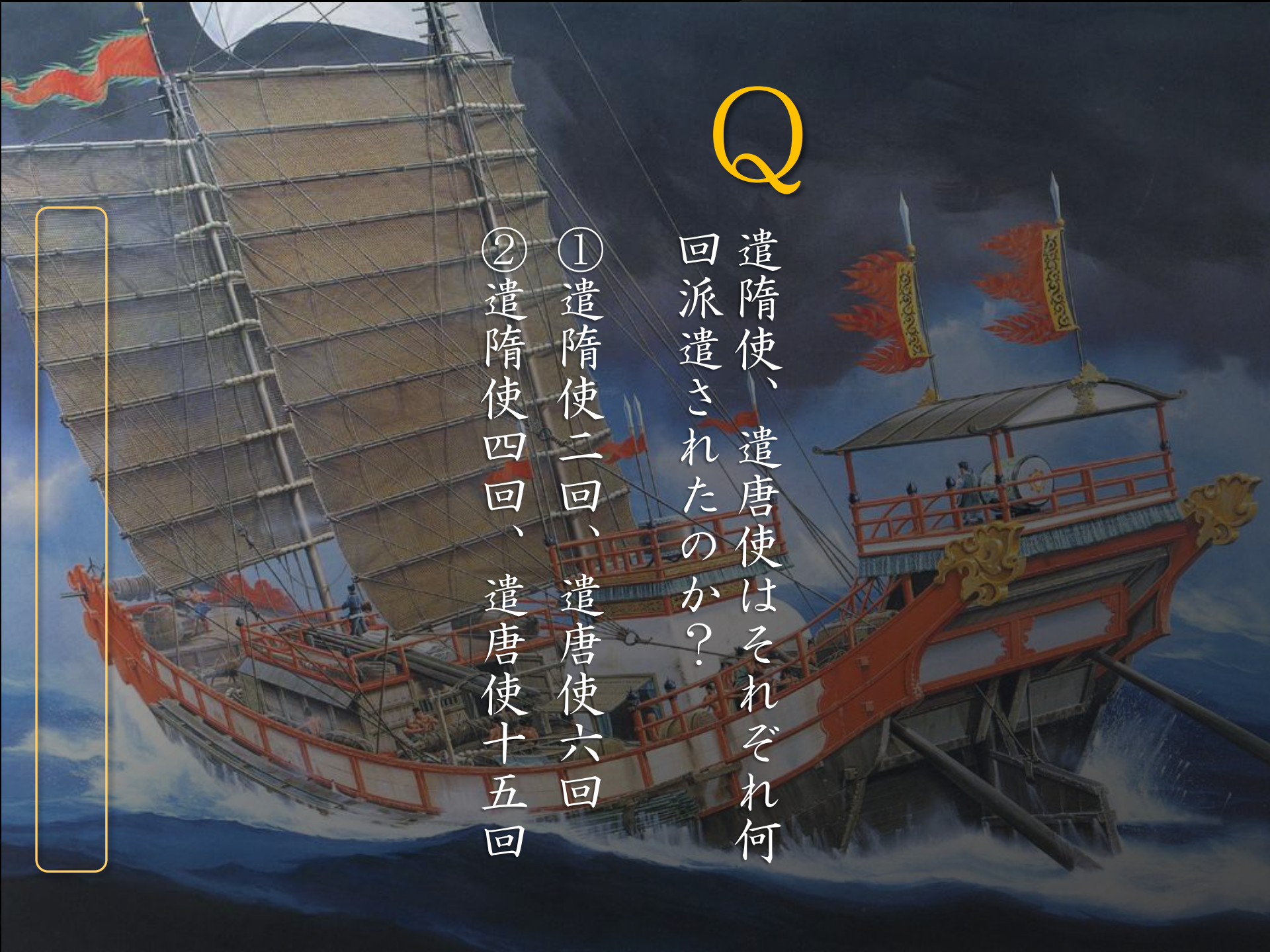
7世紀の東アジア

目次

- 第一節 遣使の派遣回数と時代区分
- 第二節 最初の留学生たち
- 第三節 白村江の戦いと遣唐使
- 第四節 最盛期の遣唐使たち

第一節 遣使の派遣回数と時代区分



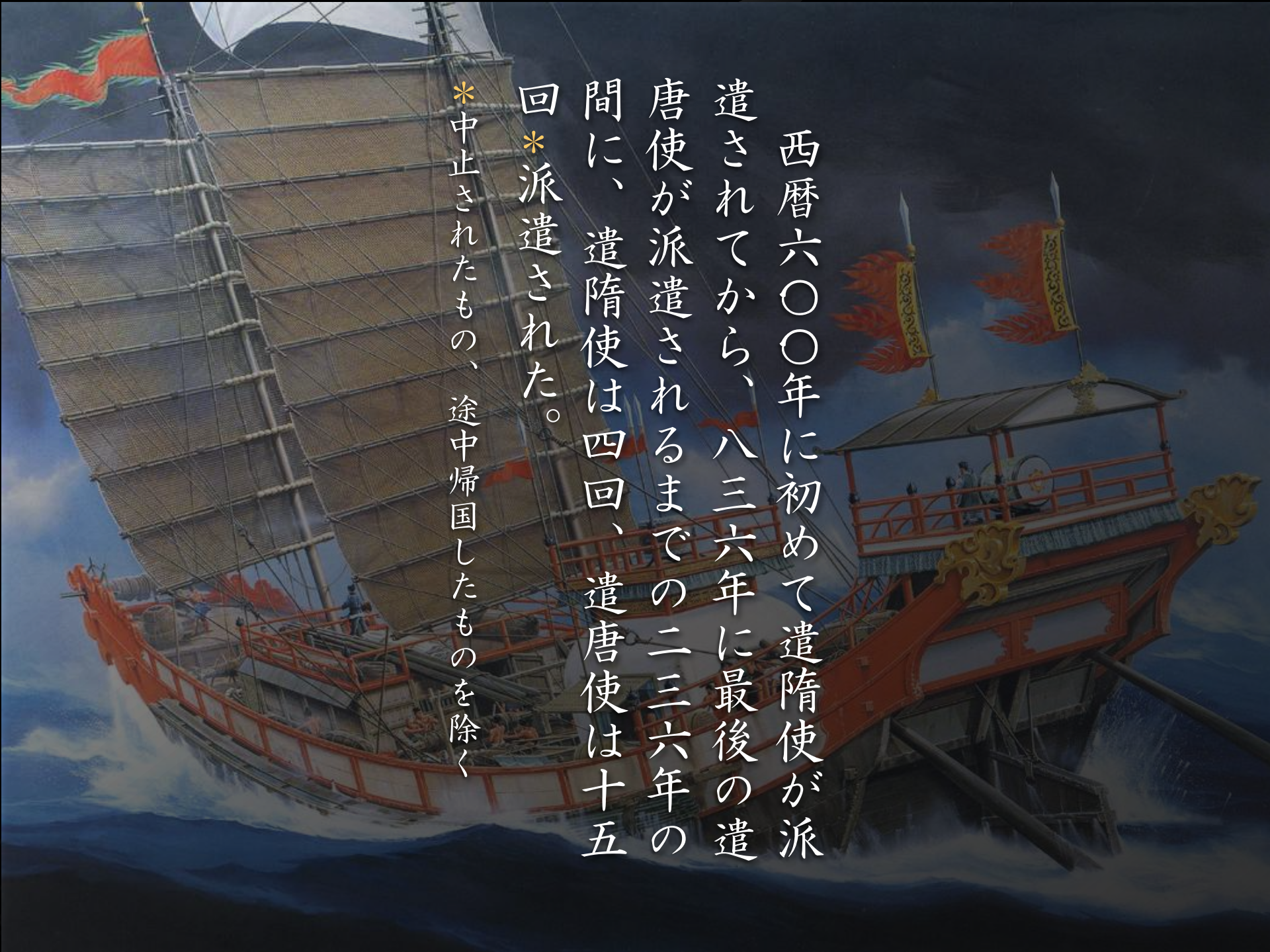


Q

遣隋使、遣唐使はそれぞれ何
回派遣されたのか？

① 遣隋使二回、遣唐使六回

② 遣隋使四回、遣唐使十五回



西暦六〇〇年に初めて遣隋使が派遣されてから、八三六年に最後の遣唐使が派遣されるまでの二三六年の間に、遣隋使は四回、遣唐使は十五回派遣された。

*中止されたもの、途中帰国したものを除く

西暦	中国	日本	遣使	備考
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	日本書紀に記録なし
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	小野妹子を派遣
608年	4年	16年	第三回遣隋使	送使 留学生の派遣を開始
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	送使(百済まで)
669年	総章 2年	8年	第六回遣唐使	
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	阿倍仲麻呂、井真成らが唐に留学
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	唐から鑑真上人を招来
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	菅原道真の建議により中止
907年	唐が滅亡			

西暦	中国	日本	遣使	時代区分
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	遣隋使 (日中交流の草創期)
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	
608年	4年	16年	第三回遣隋使	
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	遣唐使 (第一期 遣隋使の延長)
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	遣唐使 (第二期 戦後処理の外交交渉)
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	
669年	総章 2年	8年	第六回遣唐使	
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	遣唐使 (第三期 最盛期)
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	遣唐使 (第四期 衰退期)
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	
907年	唐が滅亡			

第二節 最初の留学生たち



西暦	中国	日本	遣使
600年	隋文帝開皇20年	推古 8年	第一回遣隋使
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使
608年	4年	16年	第三回遣隋使(最初の留学生を派遣)
614年	10年	22年	第四回遣隋使
618年	隋が滅亡し、唐が建国		
623年	唐高祖武徳 6年	31年	第一期留学生の倭漢直福因が帰国
630年	唐太宗貞観 4年	舒明 2年	第一回遣唐使
640年	14年	12年	第一期留学生の南淵漢人請安、高向漢人玄理が帰国
644年	18年	皇極 3年	中大兄皇子と中臣鎌足、南淵漢人請安から儒教を学ぶ
645年	19年	大化元年	大化の改新によって誕生した中大兄皇子らの新政権は、第一期留学生の新漢人日文（僧旻）と高向漢人玄理を国博士に迎え、唐の制度に倣って新たな国づくりを始める

歎之美朕有嘉焉稱喧比如常也故遣鵠臚寺
掌客裴世清等稍宣往意并送物如別時阿倍
臣出進以受其書而進行大伴鸕連迎出兼書
置於大門前机_上而奏之事畢而退焉是時皇
子諸王諸臣悉以金髻華著頭亦衣服皆用錦
紫繡織及五色綾羅_{一云服色皆用冠色}丙辰饗唐客等
於朝九月辛未朔乙亥饗客等於難波大郡辛
巳唐客裴世清罷歸則復以小野妹子_{原爲大}

第三次遣隋使(送使)

九月辛巳、隋使・裴世清が任務を
終えて帰国することになった。そこ
で再び小野妹子を大使とし、吉士雄
成(きしのおなり)を小使とし、(鞍作)福
利を通訳として隋使に随行させた。

隋に派遣された最初の留学生たち

この時、隋に派遣された学生は、

倭漢直福因（やまとのあやのあたふくいん）

奈羅訖語恵明（ならのおさえみよう）

高向漢人玄理（たかむくのあやひとくろまる）

新漢人大国（いまきのあやひとおおくに）

学問僧は、

新漢人日文（いまきのあやひとにちもん）

南淵漢人請安（みなみぶちのあやひとしょうあん）

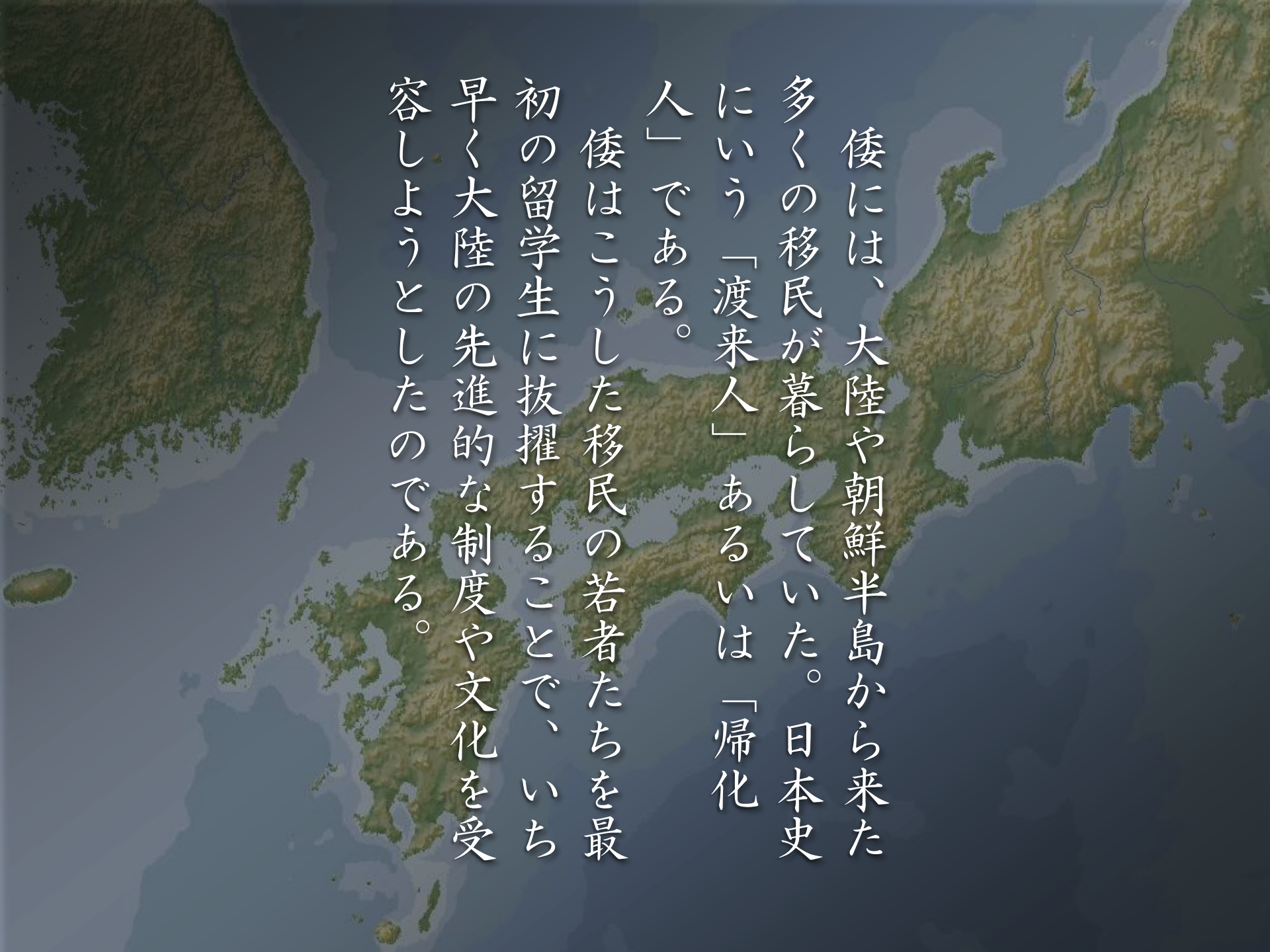
志賀漢人恵隱（しがのあやひとえいん）

漢人広濟（あやひとこうさい）

など、あわせて八人であった。

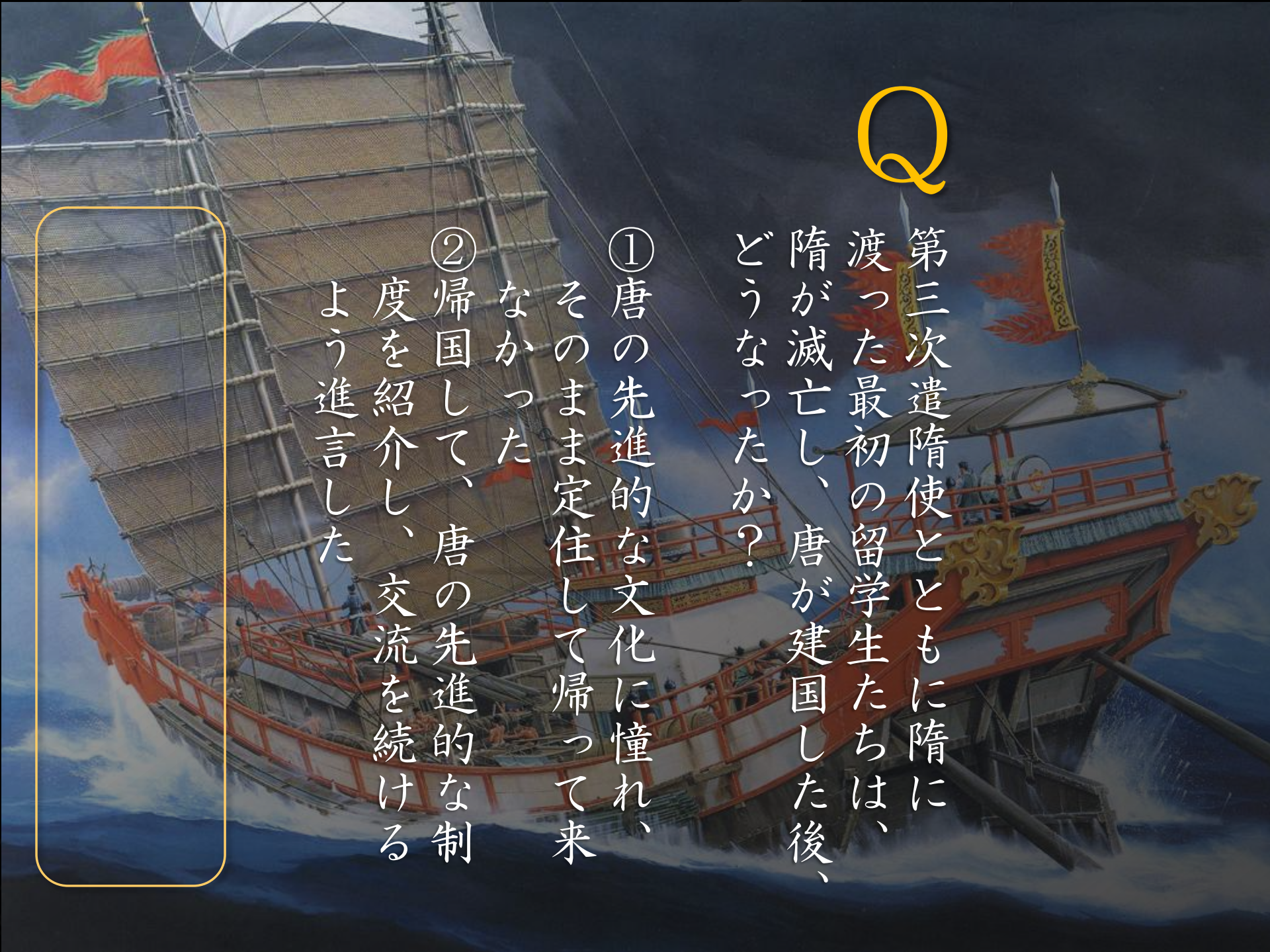
日本書紀卷二二推古天皇十六年

遣之爰天皇聘唐帝其辭曰東天皇敬白西皇
帝使人鴻臚寺掌客裴世清等至又憶方解季
秋薄冷尊何如想清念此即如常今遣大禮藏
因高太禮乎那利等往謹白不具是時遣於唐
國學生倭漢直福因奈羅訖語恵明高向漢人
玄理新漢人大國學問僧新漢人日文南淵漢
人請安志賀漢人恵隱漢人廣濟等并八人也



倭には、大陸や朝鮮半島から来た
多くの移民が暮らしていた。日本史
にいう「渡来人」あるいは「帰化
人」である。

倭はこうした移民の若者たちを最
初の留学生に抜擢すること、いち
早く大陸の先進的な制度や文化を受
容しようとしたのである。



Q

第三次遣隋使とともに隋に渡った最初の留学生たちは、隋が滅亡し、唐が建国した後、どうなったか？

①唐の先進的な文化に憧れ、そのまま定住して帰って来なかった

②帰国して、唐の先進的な制度を紹介し、交流を続けるよう進言した

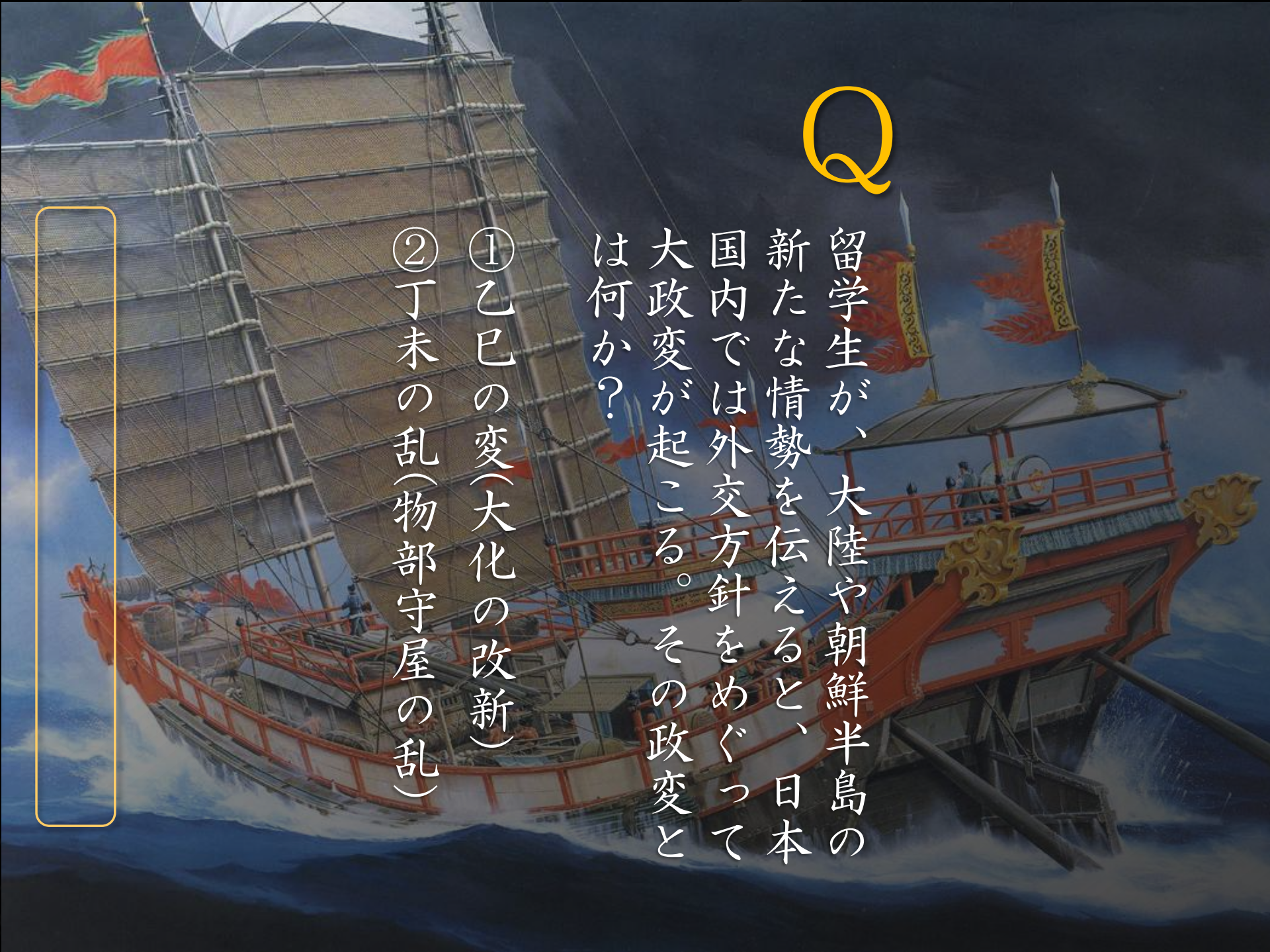
西暦	中国	日本	遣使
600年	隋文帝開皇20年	推古 8年	第一回遣隋使
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使
608年	4年	16年	第三回遣隋使(第一期留学生を派遣)
614年	10年	22年	第四回遣隋使
618年	隋が滅亡し、唐が建国		
623年	唐高祖武徳 6年	31年	第一期留学生の倭漢直福因らが帰国
630年	唐太宗貞観 4年	舒明 2年	第一回遣唐使
640年	14年	12年	第一期留学生の南淵漢人請安、高向漢人玄理が帰国
644年	18年	皇極 3年	中大兄皇子と中臣鎌足、南淵漢人請安から儒教を学ぶ
645年	19年	大化元年	大化の改新によって誕生した中大兄皇子らの新政権は、第一期留学生の新漢人日文（僧旻）と高向漢人玄理を国博士に迎え、唐の制度に倣って新たな国づくりを始める

像居於葛野奈寺以餘舍利金塔觀頂幡等皆
納于四天王寺是時大唐學問者僧惠濟惠光
及僧惠日福因等並從智洗爾等來之於是惠
日等共奏聞曰留于唐國學者皆學以成業應
嘆且其大唐國者法式備定珍國也常須達是
歲新羅伐任那任那附新羅於是天皇將討新
羅謀及大臣詢于羣卿田中臣對曰不可急討
新羅必知之後事之不晚也請試遣使觀其
歸国した留学生たち

（六二三年、新羅と任那の使節が
来朝し）唐に留学していた学問僧・

惠濟・惠光、醫師・惠日、倭漢直福
因らが（新羅大使の）智洗爾らとともに
に帰朝した。惠日らはともに上奏し
ていった。「唐に留学している学生
たちは学業も修まったので帰国させ、
また唐は法制度の整った優れた国な
ので交流を続けるべきでしょう。」

西暦	中国	日本	遣使
600年	隋文帝開皇20年	推古 8年	第一回遣隋使
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使
608年	4年	16年	第三回遣隋使(最初の留学生を派遣)
614年	10年	22年	第四回遣隋使
618年	隋が滅亡し、唐が建国		
623年	唐高祖武徳 6年	31年	第一期留学生の倭漢直福因が帰国
630年	唐太宗貞観 4年	舒明 2年	第一回遣唐使
640年	14年	12年	第一期留学生の南淵漢人請安、高向漢人玄理が帰国
644年	18年	皇極 3年	中大兄皇子と中臣鎌足、南淵漢人請安から儒教を学ぶ
645年	19年	大化元年	大化の改新によって誕生した中大兄皇子らの新政権は、第一期留学生の新漢人日文（僧旻）と高向漢人玄理を国博士に迎え、唐の制度に倣って新たな国づくりを始める



Q

留学生が、大陸や朝鮮半島の新たな情勢を伝えると、日本国内では外交方針をめぐって大政変が起こる。その政変とは何か？

①乙巳の変(大化の改新)

②丁未の乱(物部守屋の乱)



NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年 第4回 そして日本が生まれた」



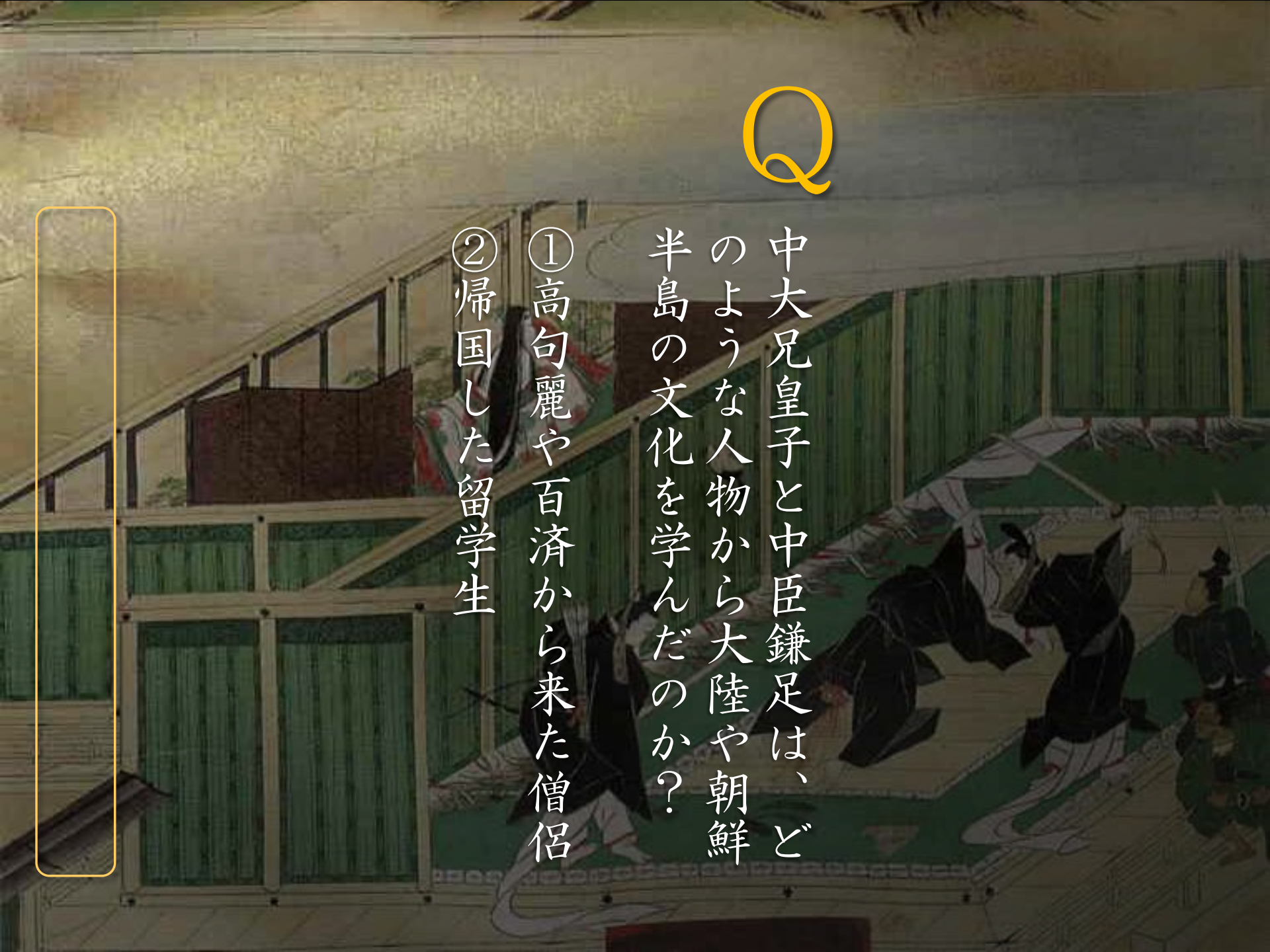
皇極天皇

蘇我入鹿

中臣鎌足

中大兄皇子

多武峰縁起絵巻（奈良県櫻井市談山神社蔵）



Q

中大兄皇子と中臣鎌足は、どのような人物から大陸や朝鮮半島の文化を学んだのか？

- ① 高句麗や百済から来た僧侶
- ② 帰国した留学生

大陸の文化を伝えた留学生

（中大兄皇子と中臣鎌足は）ともに書物を携え、南淵（請安）先生のところ
で周・孔の教え①を学んだ。

〔注釈〕

①周・孔とは、周公と孔子のこと。周・孔の教えとは、漢代以降、中国の国教となった儒教を指す。

『日本書紀』卷二四 皇極天皇三年

龜脫落取置掌中前跪恭奉中大兄對跪敬執
自茲相善俱述所懷既無所匿復恐他嫌頻接
而俱手把黃卷自學周孔之教於南淵先生所
遂於路上往還之間並肩潛圖無不相協於是
中臣鎌子連議曰謀大事者不如自轉請納蘇
我山倉田麻呂長女爲妃而成婚姻之昵然後
陳說欲與計事成功之路莫近於茲中大兄聞
而大悅曲從所議中臣鎌子連即自往謀要訖

隋に派遣された最初の留学生たち

(六〇八年に)隋に派遣された学生は、

倭漢直福因(やまとのあやのあたふくいん)

奈羅訳語恵明(ならのおさえみよう)

高向漢人玄理(たかむくのあやひとくろまる)

新漢人大国(いまきのあやひとおおくに)

学問僧は、

新漢人日文(いまきのあやひとにちもん)

南淵漢人請安(みなみぶちのあやひとしょうあん)

志賀漢人恵隠(しがのあやひとえいん)

漢人広濟(あやひとこうさい)

など、あわせて八人であった。

日本書紀卷二二推古天皇十六年

遣之爰天皇聘唐帝其辭曰東天皇敬白西皇
帝使人鴻臚寺掌客裴世清等至又憶方解季
秋薄冷尊何如想清念此即如常今遣大禮藏
因高太禮乎那利等往謹白不具是時遣於唐
國學生倭漢直福因奈羅譯語恵明高向漢人
玄理新漢人大國學問僧新漢人日文南淵漢
人請安志賀漢人恵隠漢人廣濟等并八人也

大陸の文化を伝えた留学生

舒明天皇十二年（六四〇年）冬十月、唐へ留学していた学問僧・清安（南淵漢人請安）と学生・高向漢人玄理が新羅を通り、百済、新羅の朝貢使節とともに帰国した。

日本書紀卷二三舒明天皇十二年

經冬十月乙丑朔乙亥大唐學問僧清安學生高向漢人玄理傳新羅而至之仍百濟新羅朝貢之使共從來之則各賜爵一級是月徙於百濟宮

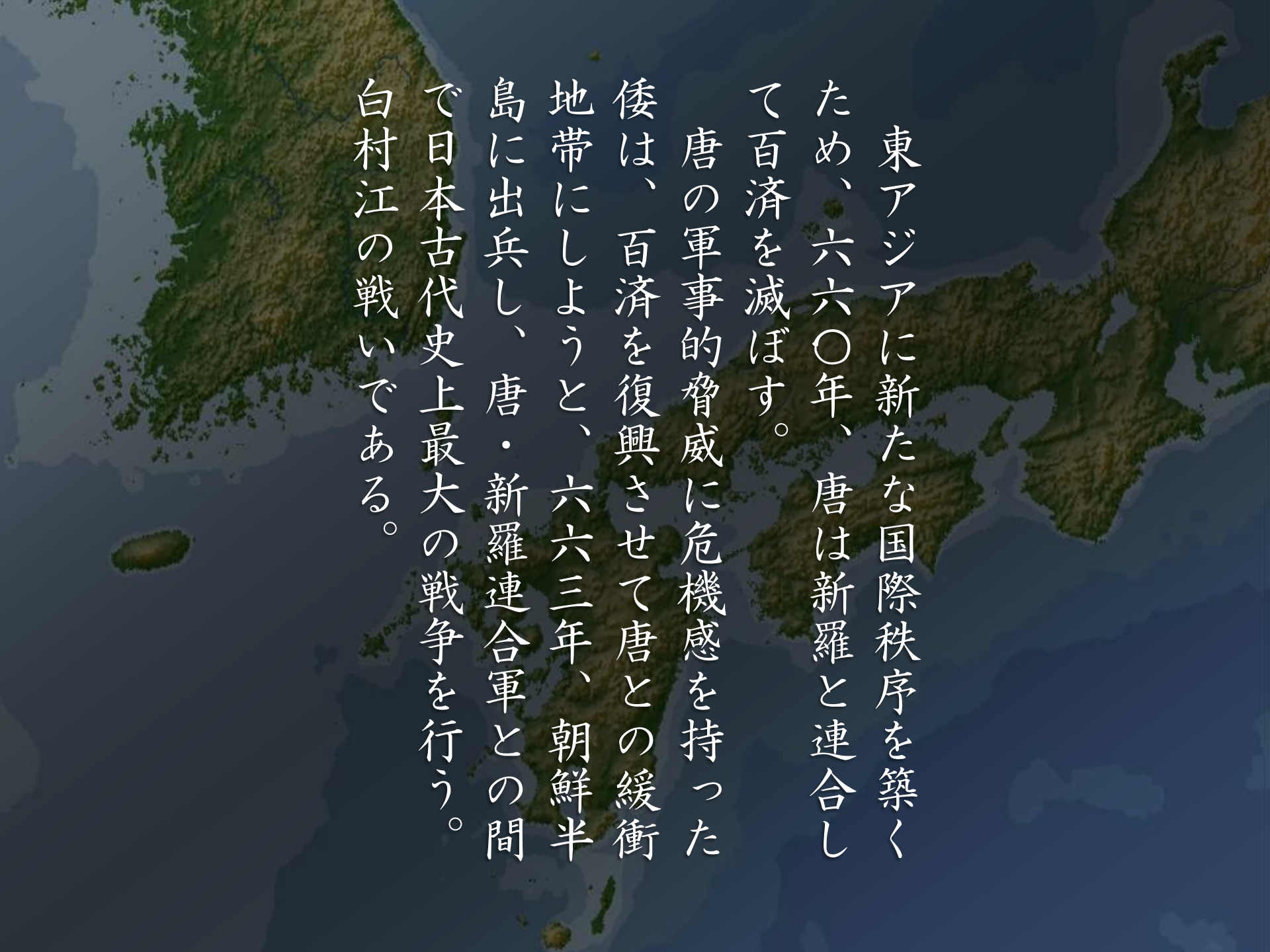
十三年冬十月己丑朔丁酉天皇崩于百濟宮丙午殯於宮北是謂百濟大殯是時東宮閑別皇子年十六而誅之

日本書紀卷第二十三

西暦	中国	日本	遣使
600年	隋文帝開皇20年	推古 8年	第一回遣隋使
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使
608年	4年	16年	第三回遣隋使(最初の留学生を派遣)
614年	10年	22年	第四回遣隋使
618年	隋が滅亡し、唐が建国		
623年	唐高祖武徳 6年	31年	第一期留学生の倭漢直福因が帰国
630年	唐太宗貞観 4年	舒明 2年	第一回遣唐使
640年	14年	12年	第一期留学生の南淵漢人請安、高向漢人玄理が帰国
644年	18年	皇極 3年	中大兄皇子と中臣鎌足、南淵漢人請安から儒教を学ぶ
645年	19年	大化元年	大化の改新によって誕生した中大兄皇子らの新政権は、第一期留学生の新漢人日文（僧旻）と高向漢人玄理を国博士に迎え、唐の制度に倣って新たな国づくりを始める

A stylized map of Japan, showing the four main islands: Hokkaido, Honshu, Shikoku, and Kyushu. The landmasses are depicted in shades of green and brown, suggesting vegetation and terrain. The surrounding sea is a deep blue. The title text is overlaid on the map, centered horizontally across the middle of the image.

第三節 白村江の戦いと遣唐使



東アジアに新たな国際秩序を築くため、六六〇年、唐は新羅と連合して百済を滅ぼす。

唐の軍事的脅威に危機感を持った倭は、百済を復興させて唐との緩衝地帯にしようと、六六三年、朝鮮半島に出兵し、唐・新羅連合軍との間で日本古代史上最大の戦争を行う。

白村江の戦いである。

西暦	中国	日本	遣使	時代区分
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	遣隋使 (日中交流の草創期)
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	
608年	4年	16年	第三回遣隋使	
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	遣唐使 (第一期 遣隋使の延長)
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	遣唐使 (第二期 戦後処理の外交交渉)
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	
669年	総章 2年	8年	第六回遣唐使	
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	遣唐使 (第三期 最盛期)
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	遣唐使 (第四期 衰退期)
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	
907年	唐が滅亡			



NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年 第4回 そして日本が生まれた」

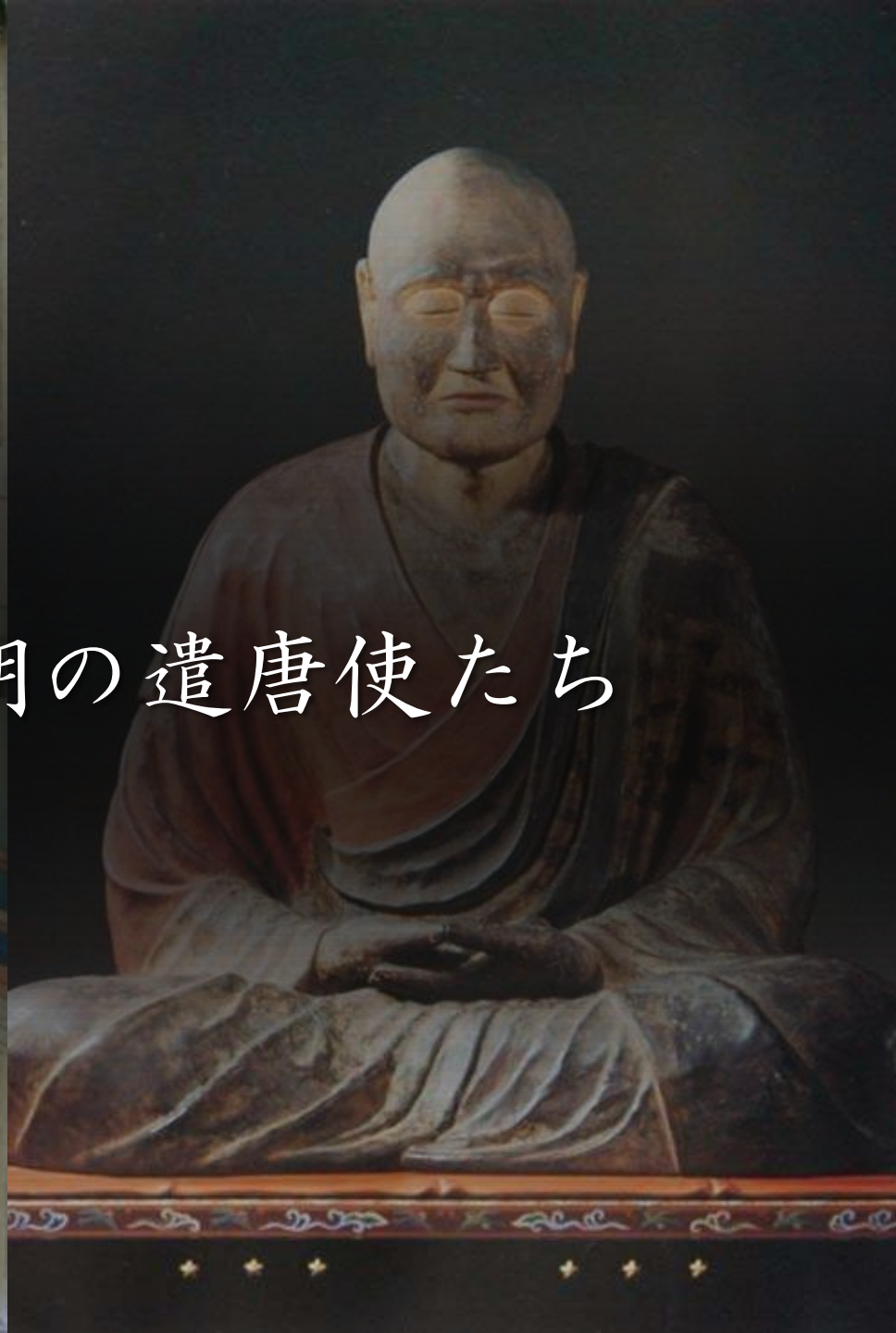
西暦	中国	日本	使節	備考
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	遣隋使 (日中交流の草創期)
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	
608年	4年	16年	第三回遣隋使	
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	遣唐使 (第一期 遣隋使の延長)
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	遣唐使 (第二期 戦後処理の外交交渉)
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	
669年	総章 2年	8年	第六回遣唐使	
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	遣唐使 (第三期 最盛期)
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	遣唐使 (第四期 衰退期)
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	
907年	唐が滅亡			



大野城跡：水城構築の翌年(665)、百済亡命貴族の指揮下で造られた朝鮮式山城

水城跡：白村江の戦いの翌年、天智3年(664)年に大宰府防衛のために構築された土塁。全長約1.2km、幅80m、高さ13m、博多側には幅60mの濠があった。

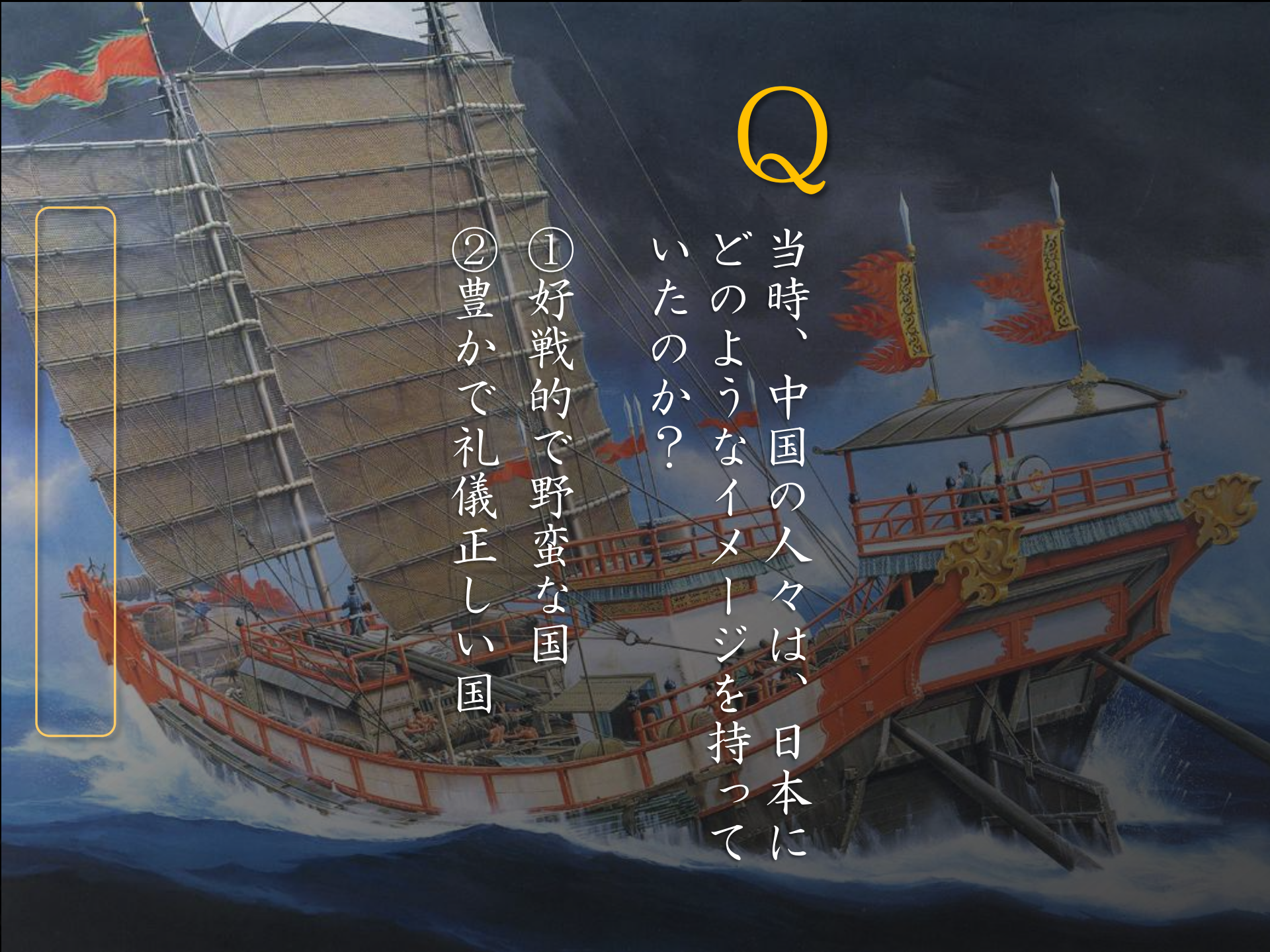
第四節 最盛期の遣唐使たち





白村江の戦いから四十年近くが過
ぎた大宝二年（七〇二年）、三十三年
ぶりに遣唐使が派遣された。

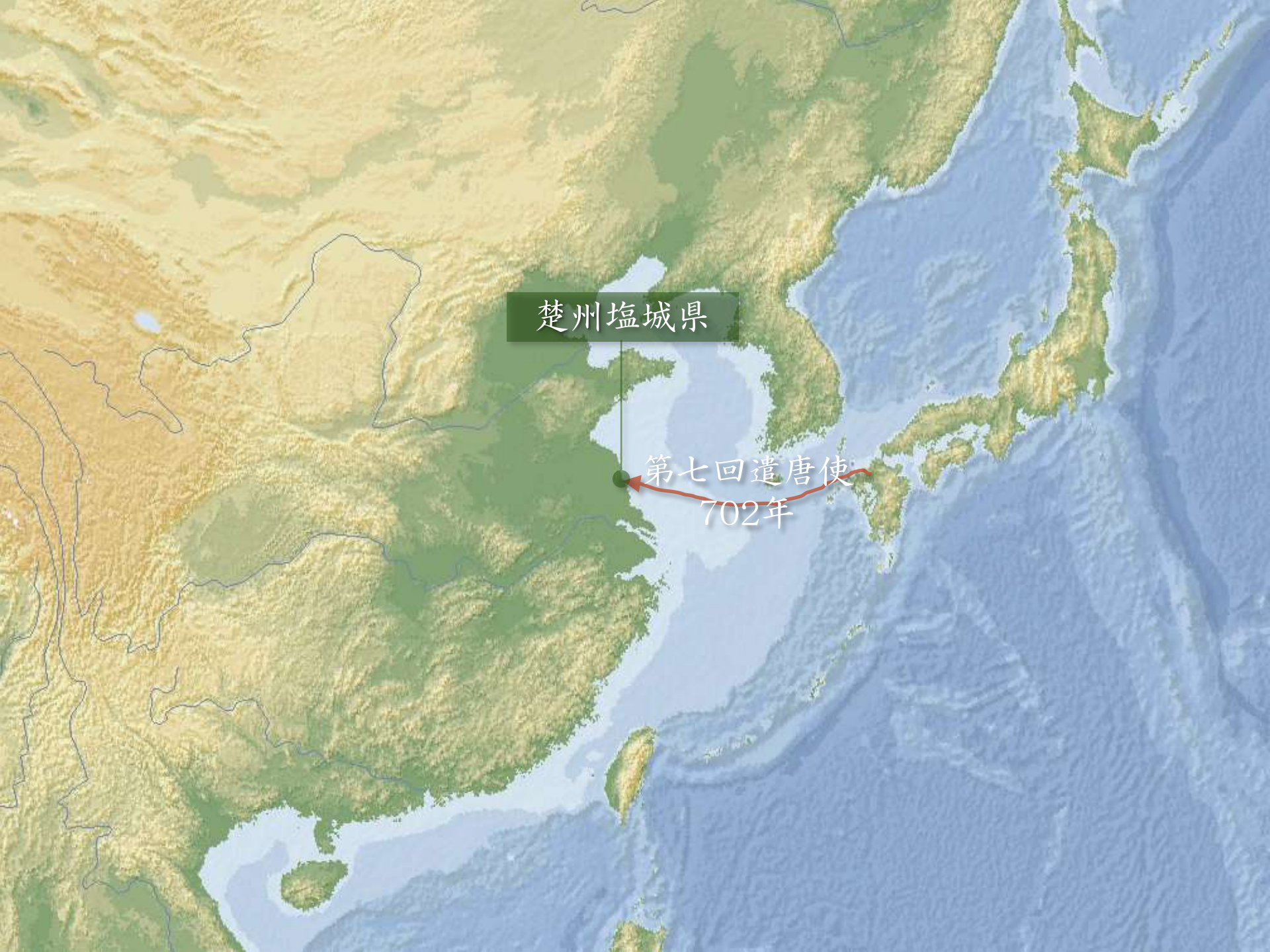
西暦	中国	日本	遣使	時代区分
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	遣隋使 (日中交流の草創期)
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	
608年	4年	16年	第三回遣隋使	
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	遣唐使 (第一期 遣隋使の延長)
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	遣唐使 (第二期 戦後処理の外交交渉)
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	
669年	総章 2年	8年	第六回遣唐使	
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	遣唐使 (第三期 最盛期)
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	遣唐使 (第四期 衰退期)
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	
907年	唐が滅亡			



Q

当時、中国の人々は、日本に
どのようなイメージを持って
いたのか？

- ① 好戦的で野蛮な国
- ② 豊かで礼儀正しい国



楚州塩城県

第七回遣唐使
702年

唐の対日イメージ(日本側の記録)

七月甲申朔、正四位下・栗田朝臣真人(あわたのあそんまひと)が唐から帰国した。唐に着いたばかりのころ、ある人が尋ねた。「どこの国の使節の方ですか」「日本国の使節です」我々の使節が「ここは何というところでしょうか」と尋ね返すと「周の楚州塩城縣です」と答えた。

之年限考第一准旂任之例○
市郡人高屋連藥女一産二男賜絶二足綿二
屯布四端○己巳阿波國獻木連理○丙子奉
幣祈雨于諸社○秋七月甲申朔正四位下栗
田朝臣真人自唐國至初至唐時有入來問曰
何處使人答曰日本國使我使反問曰此是何
州界答曰是大周楚州鹽城縣界也更問先是
大唐今稱大周國号縁何改稱答曰永淳二年

唐の対日イメージ（日本側の記録）

「以前は唐と称していたのに、なぜ周と国名を変えたのですか」と尋ねると、「永淳二年（六八三年）に高宗が崩御されると、則天武后が即位して聖神皇帝と称され、国名を周と改めたのです」と答えた。

『続日本紀』卷三本 慶雲元年（七〇四年）

州界答曰是大周楚州鹽城縣界也更問先是
太唐今稱大周國号緣何改稱答曰永淳二年

天皇太帝崩皇太后登位稱号聖神皇帝國号

大周問答略了唐人謂我使曰亟聞海東有

倭國謂之君子國人民豐樂禮義敦行今看使

人儀容大淨豈不信乎語畢而去丙戌左京

職獻白鷺下總國獻白鳥○壬辰以時雨不降

遣使祈雨於諸社○庚子公廡祿給式部省太

學散位等寮○壬寅詔京師高年八十已上

者減加賑恤○甲辰奉幣于住吉社○し巳

公唐書曰長安元年
其王文立政死曰
大周國号唐更人
人青物害尚書也
寄進使寄物唐
生龍心被紫袍唐
事有人子姓高
文進止寄客其高
寄之越使取
司唐解還し

唐書
天也

永淳
高宗
年

唐の人々の日本のイメージ

問答がほぼ終わると、唐の人は我々の使節にこういった。

「海の東にある倭という国は君子の
国で、人々は豊かで礼義正しいとよ
く聞いていました。いま使節の方々の
立派な様子を見て、それが本当だと
わかりました」

そう言い終わると去って行った。

『続日本紀』卷三慶雲元年（七〇四）

天皇太帝崩皇太后登位稱號聖神皇帝國号
大周問荅略了唐人謂我使曰亟聞海東有六

倭國謂之君子國人民豐樂禮義敦行今看使

人儀容大淨豈不信乎語畢而去
丙戌左京

職獻白鷺下綏國獻白鳥○壬辰以時雨不降

遣使祈雨於諸社 ○庚子公廨祿給式部省太

學散位等寮○壬寅詔京師高年八十已上

者咸加賑恤
甲辰奉幣
阜平佳吉社
乙巳

唐の対日イメージ(中国側の記録)

長安三年(七〇三年)、日本国の大臣・朝臣真人(栗田真人)が朝貢に来た。朝臣真人というのは、中国の戸部尚書のような官職で、進徳冠をかぶり、その頂を花模様にし、四方に分けていた。紫の袍を身につけ、絹を腰帶にしていた。

『旧唐書』卷一四九 東夷伝日本國

八寸左右各數枝以明貴賤等級衣服之制頗類新羅貞觀五年遣使獻方物太宗矜其道遠勅所司無令歲貢又遣新州刺史高表仁持節往撫之表仁無綏遠之才與王子爭禮不宣朝命而還至二十二年又附新羅奉表以通起居

日本國者倭國之別種也以其國在日邊故以日本爲名或曰倭國自惡其名不雅改爲日本或云日本舊小國併倭國之地其人入朝者多自矜大不以實對故中國疑焉又云其國界東西南北各數千里西界南界咸至大海東界北界有大山爲限山外即毛人之國長安三年其大臣朝臣真人來貢方物朝臣真人者猶中國戶部尚書冠進徳冠其頂爲花分而四散身服紫袍以帛爲腰帶真人好讀經史解屬文容止溫雅則天宴之於麟徳殿授司膳卿放還本國開元初又遣使來朝因請儒士授經詔四門助教趙玄默就鴻臚寺教之乃遣玄默闊幅布以爲束修之禮題云白龜元年調布人亦疑其僞此題所得錫資盡市文籍泛海而還其偏使朝臣仲滿慕中國之風

唐の対日イメージ(中国側の記録)

真人は経史を読むのを好み、文章を書くことができ、容貌や身のこなしも優雅であつた。則天武后は麟徳殿で宴を開き、司膳卿の位を授けて、本国に帰還させた。

『旧唐書』卷一四九 東夷伝日本國

八寸左右各數枝以明貴賤等級衣服之制頗類新羅貞觀五年遣使獻方物太宗矜其道遠勅所司無令歲貢又遣新州刺史高表仁持節往撫之表仁無綏遠之才與王子爭禮不宣朝命而還至二十二年又附新羅奉表以通起居

日本國者倭國之別種也以其國在日邊故以日本爲名或曰倭國自惡其名不雅改爲日本或云日本舊小國併倭國之地其人入朝者多自矜大不以實對故中國疑焉又云其國界東西南北各數千里西界南界咸至大海東界北界有大山爲限山外即毛人之國長安三年其大臣朝臣真人來貢方物朝臣真人者猶中國戶部尚書冠進德冠其頂爲花分而四散身服紫袍以帛爲腰帶真人好讀經史解屬文容止溫雅則天宴之於麟徳殿授司膳卿放還本國開元初又遣使來朝因請儒士授經詔四門助教趙玄默就鴻臚寺教之乃遣玄默闊幅布以爲束修之禮題云白龜元年調布人亦疑其僞此題所得錫資畫市文籍泛海而還其偏使朝臣仲滿慕中國之風

西暦	中国	日本	遣使	時代区分
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	遣隋使 (日中交流の草創期)
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	
608年	4年	16年	第三回遣隋使	
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	遣唐使 (第一期 遣隋使の延長)
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	遣唐使
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	
669年	総章 2年	8年	途中帰国	
	701年 大宝律令(法に基づく諸制度の整備)			
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	遣唐使 (第三期 最盛期)
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	遣唐使 (第四期 衰退期)
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	
907年	唐が滅亡			

西暦	中国	日本	遣使	時代区分
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	遣隋使 (日中交流の草創期)
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	
608年	4年	16年	第三回遣隋使	
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	遣唐使 (第一期 遣隋使の延長)
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	遣唐使 (第二期 戦後処理の外交交渉)
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	
669年	総章 2年	8年	第六回遣唐使	
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	遣唐使 (第三期 最盛期)
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	遣唐使 (第四期 衰退期)
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	
907年	唐が滅亡			

Q

遣唐使として派遣された留学生の中には、学業優秀で唐の役人に取り立てられる者もいた。第八回遣唐使の一員として唐に留学し、唐の役人となったの誰か？

① 阿倍仲麻呂

② 菅原道真



阿倍仲麻呂（六九八〜七七〇）

七一六年、十九歳で遣唐留学生に選ばれ、翌年、第八回遣唐使に従って唐に渡る。唐の太学に学び、科挙に合格、官吏となった。中国名を朝衡（晁衡）と名乗り、王維や李白らとも親交があった。七五二年、第十回遣唐使とともに帰国を図るが、船がベトナムに漂着。帰国を果たせぬまま、七十三歳で長安に没した。



遣唐使とともに入唐した留学生の
中には、現地で亡くなる者もいた。
唐がそうした留学生たちを手厚く
弔っていたことがわかる遺物が、二
〇〇四年、唐の都であった西安で発
見された。安倍仲麻呂とともに第八
回遣唐使の一員として唐に渡り、現
地で亡くなった井真成という留学生
の墓誌石である。



遣唐使・井真成の墓誌蓋と墓誌石 (39.5cm×39.5cm)

贈尚志
府君墓
誌銘

井真成墓誌蓋拓本

贈 奉 府 誌
尚 御 君 之
衣 井 墓 銘

贈 奉 府 誌
尚 御 君 之
衣 井 墓 銘



井真成墓誌拓本

Q

拓本はどのようにして作るか？

①石碑に紙を貼り、上から墨をつける

②石碑に墨を塗り、紙にうつす



捶拓

贈尚衣奉御井公墓誌文並序
 公姓井字真成國号日本才稱天縱故能
 銜命遠邦馳騁上國蹈禮樂襲衣冠束帶
 升朝難與儔矣豈圖強學不倦聞道未終
 壑遇移舟隙逢奔駟以開元廿二年正月
 十日乃終於官弟春秋卅六皇上年上
 悼傷追崇有典詔贈尚衣奉御葬令官
 給即以崇有典二月四日窆於萬年縣瀆水
 東原禮也嗚呼素車曉引丹旌行衰嗟遠
 路兮頽暮日指窮郊兮悲夜臺其辭曰
 憾乃天常哀茲遠方形既埋於異土魂庶
 歸於故鄉

（灰色字は氣賀澤保規博士の推定）



井真成墓誌銘

唐により手厚く埋葬された留学生

公、姓は井、字は真成。国は日本
という。卓越した才能により遠国か
ら命を受け、我が国に来た。礼をわ
きまえ、身なりも正しく、朝廷に昇
れば並ぶ者もないほどだった。

贈尚衣奉御井公墓誌文並序

井真成墓誌銘

唐により手厚く埋葬された留学生

開元二二年（西暦七三四年）正月

日、官舎で三六年の生涯を閉じた。

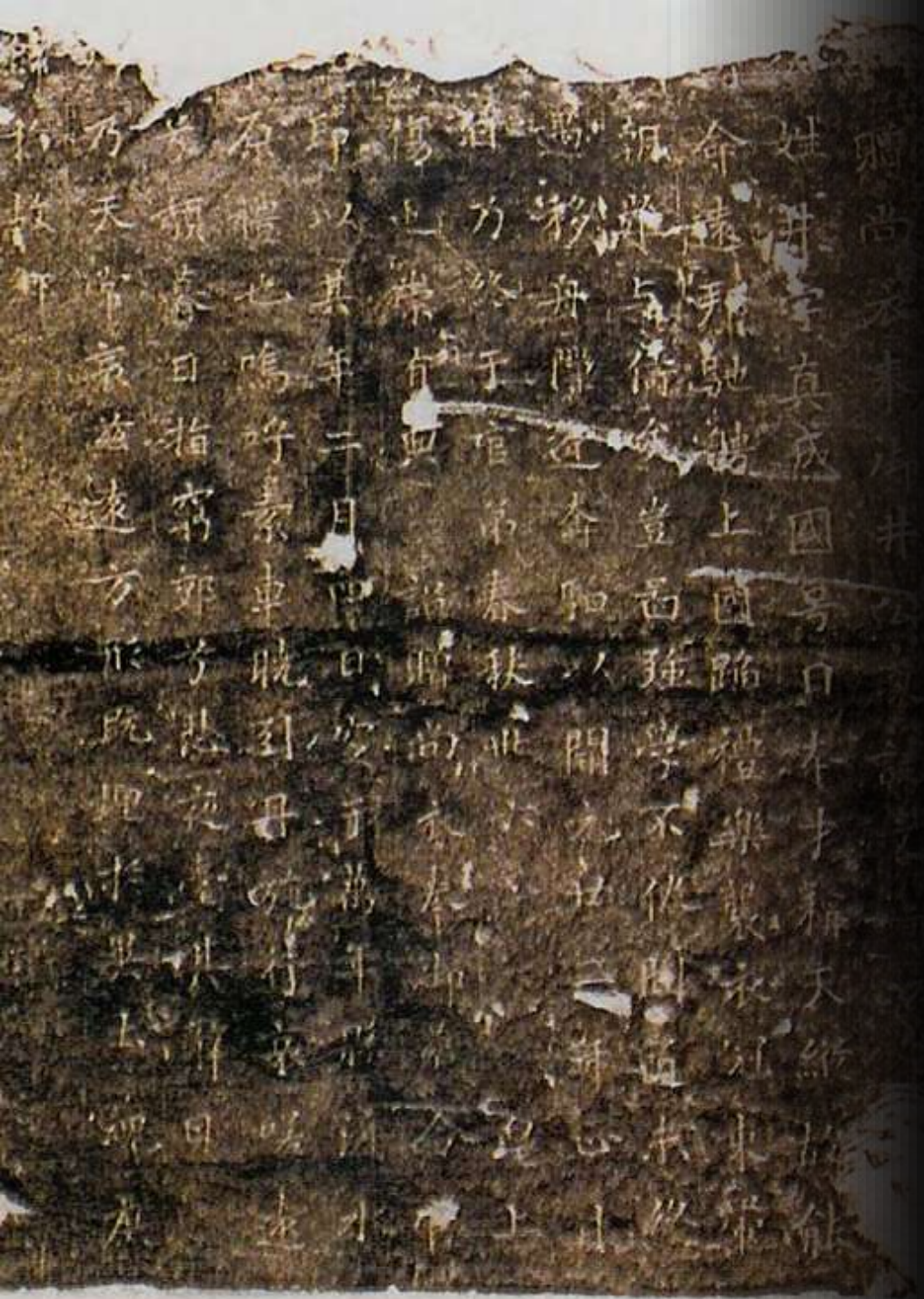
玄宗皇帝陛下はその死を悲しまれ、

尚衣奉御の官位を追贈して葬儀を行

わせ、同年二月四日に万年県瀍水の

■原に埋葬した。

贈尚衣奉御井公墓誌文並序



西暦	中国	日本	遣使	時代区分
600年	隋文帝開皇20年	推古8年	第一回遣隋使	遣隋使 (日中交流の草創期)
607年	隋煬帝大業 3年	15年	第二回遣隋使	
608年	4年	16年	第三回遣隋使	
614年	10年	22年	第四回遣隋使	
618年	隋が滅亡し、唐が建国			
630年	唐太宗貞観 4年	舒明2年	第一回遣唐使	遣唐使 (第一期 遣隋使の延長)
653年	唐高宗永徽 4年	白雉4年	第二回遣唐使	
654年	5年	5年	第三回遣唐使	
659年	顕慶 4年	斉明5年	第四回遣唐使	
663年	白村江の戦い			
665年	麟徳 2年	天智4年	第五回遣唐使	遣唐使 (第二期 戦後処理の外交交渉)
667年	乾封 2年	6年	途中帰国	
669年	総章 2年	8年	第六回遣唐使	
	30年以上にわたり遣唐使の派遣を中断			
702年	武則天長安 2年	大宝2年	第七回遣唐使	遣唐使 (第三期 最盛期)
717年	唐玄宗開元 5年	養老元年	第八回遣唐使	
733年	21年	天平5年	第九回遣唐使	
746年	天宝 5年	18年	中止	
752年	11年	天平勝宝4年	第十回遣唐使	
759年	唐肅宗乾元 2年	天平宝字3年	第十一回遣唐使	
762年	唐代宗宝応元年	6年	中止(二回)	
777年	大暦12年	宝亀8年	第十二回遣唐使	遣唐使 (第四期 衰退期)
780年	唐徳宗建中元年	11年	第十三回遣唐使	
804年	貞元20年	延暦23年	第十四回遣唐使	
836年	唐文宗開成元年	承和5年	第十五回遣唐使	
894年	唐昭宗乾寧元年	寛平6年	中止	
907年	唐が滅亡			

旬北方黄金山出海上高廿五由旬此四寶山谷椹從
金剛地水輪際出以十六万八千由旬地藏菩薩化
北方金山神施金遼陸奥國供聖武菩薩金銅盧舍
那佛用仍差少僧都良辨及佐伯宿祢令毛人命造
寺別當又造等身銀像一軀又發使入唐使至長安

遣唐使や留学生たちの礼儀正しく

優秀なふるまいは、唐王朝の日本に
対する評価をも高めることになる。

鑑真とともに日本に渡った中国の

僧・思託が、延暦七年（七八八

年）に著した『延暦僧録』には、唐

の玄宗皇帝が日本に「有義礼儀君子

国」といふ国号を与えたことが記さ

れている。

樹地慧く紅頤梨寶莊飾樹華中一一華中各有一

宝珠地皆砌以文玉其殿諸雜木盡銘沈香御座及

案經架宝莊飾盡諸工巧皇帝又勅模取有義禮儀

君子使臣大使副使影於蕃藏中以記送遣大使藤

原清河并特進副使大伴宿祢胡麻呂并銀青光祿

旬北方黃金山出海上高廿五由旬此四寶山谷棧從
金剛地水輪際出以十六萬八千由旬地藏菩薩化
北方金山神施金遂陸與國供聖武菩薩金銅盧舍
那佛用仍差少僧都良辨及佐伯宿禰令毛人命造
寺別當又造等身銀像一軀又發使入唐使至長安
不拂塵唐至開元天地大寶聖武應道皇帝云彼國
有賢主君觀其使臣趨揖有異即加号日本為有義
禮儀君子之國復元日拜朝賀正勅命日本使可於
新羅使之上又勅命朝衡領日本使於府庫一切處
遍宥至彼披三教殿初禮君主教殿御座如常莊飾

錄僧曆延引所錄要寺大東

(明)杜大綬「唐明皇招飲李白圖卷」



旬北方黃金山出海上高廿五由旬此四寶山谷椹從
金剛地水輪際出以十六万八千由旬地藏菩薩化
北方金山神施金遂陸與國供聖武菩薩金銅盧舍
那佛用仍差少僧都良辨及佐伯宿禰令毛人命造
寺別當又造等身銀像一軀又發使入唐使至長安
不拂塵唐至開元天地大寶聖武應道皇帝云彼國
有賢主君觀其使臣趨揖有異即加号日本為有義
禮儀君子之國復元日拜朝賀正勅命日本使可於
新羅使之上又勅命朝衡領日本使於府庫一切處
遍宥至彼披三教殿初礼君主教殿御座如常莊飾

錄僧曆延引所錄要寺大東

凡經三史架列積載尉龜次至御板光君之教堂閣卷
唐の玄宗皇帝から贈られた国号

(七五二年)宇再び唐へ使節(第十回 唐明皇招飲李白圖)
遣唐使)を送った。唐一行は長安に到着すると、旅の疲れもそのままに宮中
中に参内した。寶莊飾樹華中一一華中各有一

延曆僧錄勝宝感神聖武皇帝菩薩伝

旬北方黃金山出海上高廿五由旬此四寶山谷棧從
金剛地水輪際出以十六万八千由旬地藏菩薩化
北方金山神施金遂陸與國供聖武菩薩金銅盧舍
那佛用仍差少僧都良辨及佐伯宿禰令毛人命造
寺別當又造等身銀像一軀又發使入唐使至長安
不拂塵唐至開元天地大寶聖武應道皇帝云彼國
有賢主君觀其使臣趨揖有異即加号日本爲有義
禮儀君子之國復元日拜朝賀正勅命日本使可於
新羅使之上又勅命朝衡領日本使於府庫一切處
遍有至被披三教殿初礼君主教殿御座如常莊飾
唐の玄宗皇帝から贈られた国号

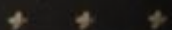
唐の玄宗皇帝は「かの国に優れた
君主がゐることは、その使臣の振る
舞いが並々でないことを見ればわか
る」といい、日本に「有義礼儀君子
国」という国号を与えた。さらに元
日の朝賀の際は、日本の使節の序列
を新羅の上位に据えるよう命じた。

Q

遣唐使は、唐の優れた人材も日本に招来した。右の像は、第十回遣唐使が招来した唐の高僧である。この高僧とは誰か？

① 玄奘

② 鑑真



鑑真(六八八〜七六三)

唐の高僧。揚州江陽県の生れ。当時、日本では官許を得ぬまま出家する私度僧尼が増えていた。朝廷は、僧尼の受戒制度を整えるために、第九回遣唐使の際に僧・栄叡(ようえい)を同行させ、揚州大明寺の鑑真に日本への渡航を要請した。



★ 鑑真(688〜763年) ★

鑑真(六八八〜七六三)

鑑真(六八八〜七六三)は日本の要請に応じ、五回に渡って渡航を企てたが、いずれも失敗し、視力を失った。その後、第十回遣唐使とともに日本に渡り、僧尼の受戒制度を整備するとともに、唐招提寺を建てて日本の律宗の開祖となった。



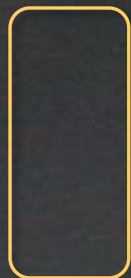
鑑真の墓(唐招提寺)

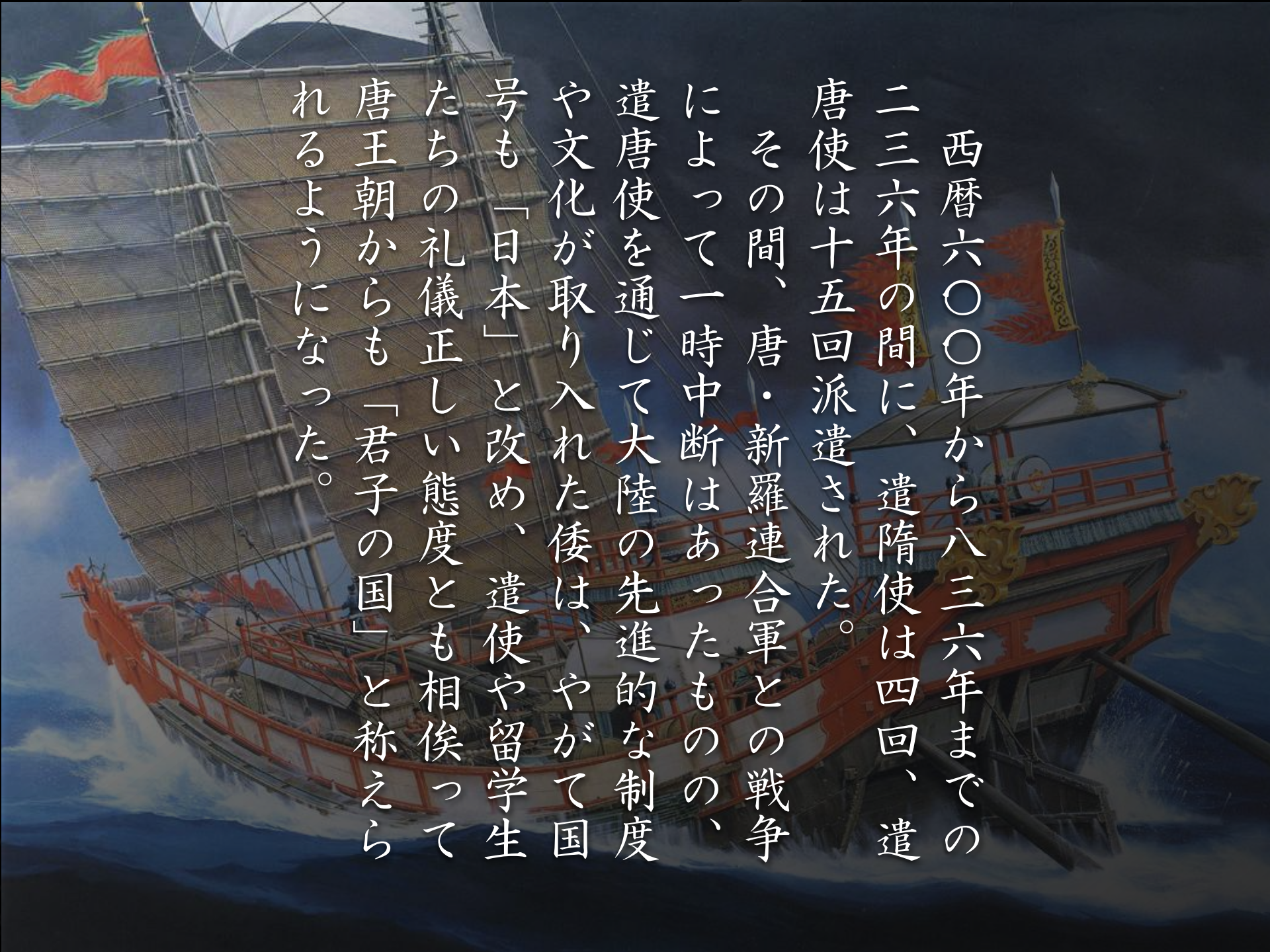
Q

遣唐使には、使節や留学生ばかりでなく、唐の先進的な技術を学ぶ技術者も含まれていた。左の鑑真像も当時の最新技術で作られたものである。材料には何が使われているか？

① 樹脂

② 木材





西暦六〇〇年から八三六年までの
二三六年の間に、遣隋使は四回、遣
唐使は十五回派遣された。

その間、唐・新羅連合軍との戦争
によって一時中断はあったものの、
遣唐使を通じて大陸の先進的な制度
や文化が取り入れた倭は、やがて国
号も「日本」と改め、遣使や留学生
たちの礼儀正しい態度とも相俟って
唐王朝からも「君子の国」と称えら
れるようになった。

参考文献

- ・東野治之『遣唐使』（岩波新書二〇〇七年）
- ・上田雄『遣唐使全航海』（草思社二〇〇六年）
- ・専修大学・西北大学共同プロジェクト編『遣唐使の見た中国と日本』（朝日選書二〇〇五年）
- ・王勇『唐から見た遣唐使』（講談社新書メチエ一九九八年）

映像資料

- ・ETV特集「日本と朝鮮半島二〇〇〇年第四集そして日本が生まれた」（NHK教育二〇〇九年七月二六日放送）

